

## 令和 4 年度研究開発実施報告書（要約）

## 1 研究開発課題

新教科「地球未来科」の充実と、「地球未来科」で身に付けた力をいかしながら、各教科で異年齢の協働的な学びを行い、主体的な学びの育成を目指す。

## 2 研究開発の概要（別紙 1：研究概要図）

「地球未来科」と各教科間における教科横断型探究活動を開発し、小中高連携校 10 校の児童生徒で構成した異年齢・異学年集団による協働的な学びの実践により、「主体的な学び」と「批判的思考力」の育成を図ることを中心課題とする。

児童生徒の変容をみとるための適切な目標設定と系統的なルーブリック評価、ポートフォリオの改善を行い、記述から内面の成長をみとる評価方法について提起する。

## 3 研究の目的と仮説等

## (1) 研究仮説

- ① 「異年齢・異学年集団での協働的な学習活動」と「教科横断型探究活動」を核とした「地球未来科」において、教師が示した評価規準に対して児童生徒が個々の課題を克服するような具体的な到達目標を考え学習活動を行うことができれば、児童生徒の主体的な学びが育成されるであろう。
- ② 異なる特色を持つ町に設定されている中学校が核となって P L 開発教育を実践し、KEY STAGE 制の効果を発揮できれば、児童生徒の「批判的思考力」が育成されるであろう。異年齢集団での授業開発と連携教育の枠組ができれば、適性規模での連携教育を踏まえた、汎用性のあるカリキュラムマネジメントが構築されるであろう。

## (2) 研究課程の特例

- ① 小中高一貫教育を生かした 12 年間を通した新教科「地球未来科」の設定。
- ② 教育課程は、小学校では生活科および総合的な学習の時間を「地球未来科」で代替する。  
中学校では総合的な学習の時間、高校では総合的な探究の時間を「地球未来科」で代替する。

## 4 研究の内容

## (1) 研究課程の内容

## ①異年齢・異学年集団による協働的な学びの実践

## ◆ S T (Student Teacher) 活動

S T 活動は、高校生が小学生に学習指導する活動で、異年齢集団による協働的な学びを通して教える側と教わる側双方の「主体的な学び」の育成を目的にしている。（表 1 参照）

地球未来科にとどまらず教科に活動を広げ、地球未来科で身に付けた力を他の教科にも応用した、教科横断型探究活動を実践した。（表 2 参照）

表 1 令和 4 年度に実施した地球未来科の S T 活動

内 容	対 象
プラチナツアー	安心院地区の小学校 4 年生と高校 2 年生
大根・白菜の栽培	小学校 2 年生と高校園芸マネージメントコース 2 年生
ブドウの栽培	小学校 2 年生と高校園芸マネージメントコース 3 年生

表2 令和4年度に実施した教科によるST活動

教科・科目	内容	高校生	小学生
理科・生物基礎	光学顕微鏡で生き物を観察しよう	一般コース2年生	6年生、 4・5年生
商業・簿記	安心院 BOKI★ゲーム	情報会計コース2年生	5年生
地理歴史・地理B	地図やGISから防災を考えよう	一般コース2年生	4年生
家庭・発達と保育	高校生とクリスマスリースをつくろう	子どもの発達と 保育選択3年生	1年生

◆ML (Middle Leader) 活動

KEY STAGE 3 の活動として、安心院中学校・院内中学校が核となり、小学校と交流活動を実施した。小学校で学習した各校区の魅力や課題などを他の小学校区の生徒と共有することで、中学校で安心院町・院内町の未来を創っていくような活動（課題解決）につなげていくことを目的にしている。具体的には、小学校6年生が学びの成果を発表する資料の作成段階で、中学校1年生が、自分の経験や既習事項をもとにアドバイスをを行いながら、共に学びを進めた。（年間指導計画は表3参照）

表3 ML活動の年間指導計画

	①交流につながる活動	②交流会	③地区別発表会	④全体交流会
活動時期	1学期	7月～1月	2月上旬	5月
活動学年	小学校6年生と中学校1年生			中学校1, 2年生
活動範囲	各小学校別			学年全体
活動場所	各小学校, ZOOM		中学校	

②KEY STAGE 制による小中高12年間のカリキュラムマネジメント

地域資源を活用した系統的な教育課程や教材開発を行った。（表4参照）

表4 各校の実践例

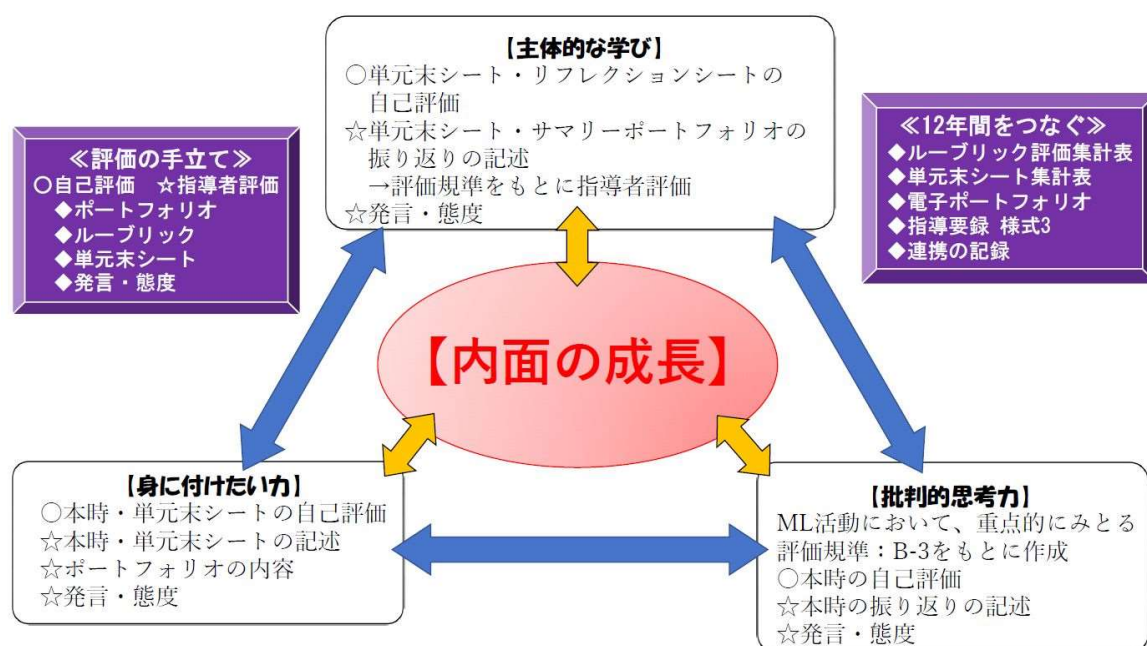
KEY STAGE	学年	実践例
KEY STAGE 1	小1	なつをたのしもう いろいろなせんせいと もっと なかよくなるろう どじょうはかせになろう たのしい あき いっぱい 「佐田神社」たんけん～すてきみつけ隊
	小2	おいしくそだて わたしの野さい 野菜作り名人になろう
KEY STAGE 2	小3	院内の「すてき」を発見しよう 「くにとしぶどう園」のヒミツをさぐるろう!! 安心院七不思議たんけんたい
	小4	石橋教材を利用して地域の問題を解決しよう
KEY STAGE 3	小5	青山城のひみつを広めようプロジェクト
	小6	深見の自慢や魅力を津房小の仲間に伝えよう 津房の文化遺産「松本の仁王像」を調べよう 小学校で学んだことを、他地域の生徒に伝えよう（ML活動）
	中1	小学校6年生の発表を、相手に伝えるものにしよう（ML活動）
	中2	地域の魅力を発信しよう
KEY STAGE 4	中3	安心院・院内学（グリーンツーリズムの学習をとおして安心院の魅力と課題を再発見しよう）
	高1	地球未来科講演会、バーチャル・ゴールデンツアー
	高2	ゴールデンツアー、プラチナツアー（ST活動） 個人研究（SDGs学習会）
	高3	個人研究

## (2) 研究の経過

第1年次	<p>○KEY STAGE の再編成に伴う「地球未来科」のカリキュラムの修正と教科横断型探究活動の指導計画を作成した。</p> <p>○中学生がML活動で小学生へワークショップを行うための指導計画を作成した。</p> <p>○小中高の児童・生徒と地域住民による「教育フォーラム」を開催した。</p> <p>○ST活動（異年齢集団における学び）の指導計画及び評価方法を作成した。</p> <p>○連携10校における合同研修会・公開研究会を実施した。</p>
第2年次 (名目指定)	<p>(新型コロナウイルス感染症による影響により名目指定に変更)</p> <p>○ML活動を本格実施した。</p> <p>○ST活動で教科横断型探究活動の実践を進めた。</p> <p>○小中高の児童・生徒と地域住民による「教育フォーラム」を開催した。</p> <p>○記述から内面の成長をみとる評価方法について検討した。</p> <p>○連携10校における合同研修会・公開研究会を実施した。</p> <p>○連携校10校の学習指導案を集約した研究実践資料集を作成した。</p>
第3年次	<p>○ML活動において、年間計画の見直しを図り、交流機会を増やした。</p> <p>○ST活動「プラチナツアー」において、小学校と高校とのカリキュラムのすり合わせを行った。</p> <p>○連携10校における合同研修会・公開研究会を実施した。</p> <p>○ルーブリック評価集計表を12年間継続使用できるものに改良した。</p> <p>○ポートフォリオの電子化を図り、児童・生徒の個人タブレットに保存した。</p> <p>○研究報告（中間）を紙面開催で実施した。</p> <p>○「地球未来科の指導手引き」を作成した。</p>
第4年次	<p>○振り返りシートを改良した単元始めシート及び単元末シートを開発した。</p> <p>○児童・生徒用「身につけたい力表」を作成した。</p> <p>○連携10校における合同研修会・公開研究会を実施した。</p> <p>○研究発表会（本発表）を実施した。</p>

## (3) 評価に関する取り組み

「捉える力・解決する力・英語をツールとしたコミュニケーション力」を「身につけたい力」とし、これに加えて「主体的な学び」と「批判的思考力」を育成することで、児童・生徒の内面の成長につながると考え（下図参照）、以下に示す方法で評価した。



地球未来科で育成を目指す資質・能力と評価の相関図

### ①「身に付けたい力」の評価

「身に付けたい力一覧」（資料1参照）に基づいて指導者が設定したルーブリックにより児童・生徒が行う本時及び単元末の自己評価（S・A・B・Cの4段階）と、単元末に児童・生徒が記述する振り返りの内容、毎時間のポートフォリオ（ワークシート）の記述内容、活動中の発言や態度のみとりを総合して指導者が評価を行った。

### ②「主体的な学び」の評価

小中学校では単元末シート、高校ではリフレクションシートとサマリーポートフォリオで、以下の評価規準に則り、ルーブリックを設定して、記述の評価を行った。

#### KEY STAGE 1・2の評価規準

振り返りを通して身に付けた力を自覚することで、自分の成長に気づくことができる。

#### KEY STAGE 3・4の評価規準

振り返りを通して身に付けた力を自覚することで自分の可能性に気づき、他の学習活動や進路選択等、将来の生き方に生かそうとする。

令和4年度から、小中学校においては単元での変容をみとるために、単元始めシート・単元末シートを導入した。単元の最初に単元始めシートに記入したその単元に関わる既習事項や興味関心に基づいて、児童・生徒が自分たちで目標となる「キーワード」設定を行うことで、見通しをもって活動できるようにした。その際、児童・生徒用「地球未来科でつけたい力表」（資料2参照）を作成して教室に掲示し、目標設定の参考にするとともに、単元途中でも常に「身に付けたい力」を意識して学習できるようにした。「単元末シート」では、単元始めに記入した「キーワード」をいくつ達成できたかで自己評価を行い、その「キーワード」を使用して記述で振り返り、その記述内容を指導者が評価した。

### ③「批判的思考力」の評価

地球未来科における「批判的思考力」を次のように定義した。

言語（読み・書き・話し・聞く）により、情報を整理したり分析したりして考え、それらをまとめたり表現したりして導いた自分の考えを他者や他地域と比べる（多面的・多角的に捉える）ことを通して、自らの考えを吟味・修正して再構築する力

この力を最も育成したい時期をKEY STAGE 3と考え、手立てとしてML活動を取り入れた。評価は、「身に付けたい力一覧」の「B 解決する力-3 整理・分析スキル」をもとに評価基準を作成し、児童・生徒の本時の授業の自己評価や振り返りの記述及び活動中の発言や態度のみとりによる指導者評価を行った。（表5参照）

表5 ML活動の記述の評価基準（ルーブリック）

S	自分の考えを他の情報と比較して、ちがいや共通点を整理し、自分の考えを見直すことができた。
A	自分の考えを他の情報と比較して、ちがいや共通点を整理することができた。
B	視点に沿って、自分の考えを持つことができた。
C	自分の考えを持つことができなかった。

### ④12年間をつなぐ工夫

ルーブリック評価は、12年間継続して入力できるルーブリック評価集計表（Excel）に保存し、児童・生徒の成長を継続して確認できるようにした。また、ルーブリック評価を記録したワークシートは、ポートフォリオとしてKEY STAGE 毎にバインダーで保管するとともに、児童・生徒に配付されたタブレットにも電子化して保存し、自分で学習記録をいつでも振り返ることができる環境を整えた。また、電子化したポートフォリオを学校でも保管することで、学習成果物の蓄積を可能とした。

第1年次	○連携校10校において、6月から11月にかけて単元の初めと終わりの2回、ポートフォリオでルーブリック評価を実施し、「捉える力」「解決する力」を分析した。 ○ST活動に関わった小学校教員が児童の「主体的態度」の育成効果を評価した。
第2年次 (名目指定)	○連携校10校において、6月から11月にかけて単元の初めと終わりの2回、ポートフォリオでルーブリック評価を実施し、「捉える力」「解決する力」を分析した。 ○記述から内面の成長をみとる評価方法について検討した。
第3年次	○記述から「主体的な学び」の成長をみとる評価規準及び評価基準を設定した。 ○振り返りシートを開発し、学年末に「捉える力」「解決する力」のルーブリック評価と、振り返りの記述から「主体的な学び」の評価を実施した。 ○「批判的思考力」の評価基準を設定し、KEY STAGE 3において学年末にルーブリック評価を実施した。 ○ルーブリック評価集計表を12年間記録できるものに変更した。 ○ポートフォリオの電子化を進めた。
第4年次	○単元始めシート及び単元末シートを開発し、児童・生徒が自ら目標設定することによる「主体的な学び」の変容について、9月までに単元末シートの振り返り記述から評価を実施した。

## 5 研究開発の成果

### (1) 実施による効果

#### ① 「主体的な学び」の育成

##### ◆ST活動

##### ・小学校2年生「ぶどうの栽培」

高校生からぶどう栽培の条件や方法、作業の目的や手順を丁寧に教えてもらい、袋掛けやジベレリン処理、収穫などの協働的な活動を行った。この活動を通して児童は、ぶどう栽培の知識や栽培方法、その難しさや苦勞、喜びを頭と体で学ぶことができた。学習が進むにつれ、積極的に活動に参加したり質問したりする姿が多く見られるようになった。ぶどうに関する知識が増し、興味・関心・意欲が高まってくるにつれ、学級での学びの交流も活発になり、新聞づくりやQRコード作成に友だちと協力して積極的に取り組むようになった。また、優しく教えてくれたり、手助けをしてくれたりする高校生への信頼やあこがれから、「高校生のようになりたい。」「高校生のようになりたい。」などの振り返りの記述も見られるようになった。

このことから、ST活動は、児童の主体的に学ぶ力の育成において効果的な取り組みだと考えられる。

##### ・高校2年生「プラチナツアー」

プラチナツアーは、安心院地区4小学校を2グループに分けて実施した。1回目の高校生の振り返りでは「小学生との交流が少ない」「英語をあまり使用できなかった」「小学生に伝わるように表現や話す速度を工夫する必要がある」などの記述がみられ、2回目に向けて小学生がより楽しんでツアーを体験できるよう、内容を精選し小学生に分かりやすい表現を工夫した。

実施後の「高校生のツアーを見て、自分も安心院の魅力を伝えたいと思いましたか」という児童への質問では、2回目に参加した安心院小学校の児童全員が「とても思った」と回答した。また、高校生の2回目の振り返りでは、「伝える情報を絞ることで、小学生との交流がしっかりとできた」「英語を使ったコミュニケーションを増やし、小学生から楽しかったと言われてうれしかった」「自分たちの伝えたいことを、小学生の心にしっかりと残すことができたと思う」「成果を大きく感じる事ができた。次の活動に生かしたい」などの記述がみられた。

このことから、ST活動は、異年齢集団との協働的な学びを通して身に付けた力を自覚し、次の活動などに生かそうとする主体的な学びの育成に有効であると考えられる。

## ② 「批判的思考力」の育成

### ◆ML活動

中学生は、1回目の交流会に向けての活動では、発表資料の内容や全体的な構成よりも、文字の多さや大きさ、写真の画質など、資料の見やすさの方に意識が向いている生徒が多かった。しかし、2回目の交流会に向けての活動では、「何を伝えたいのか」「なぜこの写真を選んだのか」など、小学生の思いを大切にしながら、インターネットで調べたり、ペアで「どうすれば思いが伝わるか」を話し合ったりして、資料の内容についても「よいところ」「課題」「改善案」を考えることができていた。

小学生は、1回目の交流会後は「よくできたと思ったが、まだよくなると思った」や「自分の思いを伝えきれなかった」「もっと調べてみたい」などの振り返りの記述があり、2回目の交流会に向けて、インタビューを行ったり、もう一度調べ直したり、アドバイスを取り入れるなど発表資料の改善が見られた。2回目の交流会では、「中学生に自分の思いを伝えながら、資料の改善ができた」という記述もあり、根拠を持って発表資料を作成している姿が見られた。

このことにより、ML活動は、他者と自分の意見を比較検討することを通して、自らの考えを再構築していく批判的思考力の育成の手立てとして有効であると考えられる。

## ③ 児童・生徒による目標設定

これまでの指導者主導の目標設定から児童・生徒が主体となっていく目標設定をめざし、令和4年度から単元始めシートを導入した。単元の最初に単元始めシートに記入した既習事項や興味・関心に基づいて、児童・生徒用「地球未来科でつきたい力表」を参考に自分たちで目標となる「キーワード」（目標）設定を行った。

児童・生徒が自分たちで目標設定を行うことで達成意識が高まり、見通しを持って主体的に学習に取り組んでいくようになった。また、単元末シートでは、目標に照らした振り返りが行われるようになり、自分の成長を捉えるのにも効果的であった。

このように、児童・生徒が主体となっていく目標設定は、主体的な学びにおいて有効であると考えられる。

## ④ ルーブリック評価、ポートフォリオの記述のみとり

### KEY STAGE 1

「捉える力」では、A評価をつけている児童がほとんどで、関心・意欲を持ち主体的に活動していることがうかがえた。「解決する力」もA評価が多く、課題を見つけインタビューをしたり、本やインターネット等で調べたりしながら考えをまとめていた。

友だちの考えのいいところに気付いた記述があり、協働・他者理解の力がついてきているのではないかと考えられる。自己の身に付けた力を自覚し、次にしてみたいことを記述している児童もいて主体的な学びの姿がみられた。

学校の先生へのインタビューや野菜の観察など同じ活動を繰り返し行うことから、指導者が児童の変容をみとることができた。

### KEY STAGE 2

3・4年生は、ルーブリック評価の経年比較から、「捉える力」が上昇した児童が7割程度おり、「地域の特徴や・新しい良さを見つけた。」「振り返りを通して自分の良さや成長を実感できた。」という記述がみられた。「解決する力」が上昇した児童は、8割程度おり、聞き取りやアンケートをして情報を集めたり、必要な情報を選んでメモや写真に記録したりしたことを評価していた。「英語を使ったコミュニケーション力」では、学習した英語を使ってALTと交流したが、対象者が少数であったことや習得単語が限られていたこともあり、経年比較においては、大きな変化は見られなかった。ルーブリック評価は、自己の成長を自覚し、次の学習への意欲の向上やめあて意識を高めるのに効果的であると考えられる。

ポートフォリオの記述においては、授業や単元の「振り返り」が定着し、学習した内容や活動を振り返る児童の記述が増えたため、これまでより具体的な学習のみとりが行えるようになった。ルーブリック評価の分析やポートフォリオの記述のみとりから指導者評価も具体性や客観性が増し、より詳しく的確に行えるようになったと考えられる。

### KEY STAGE 3

ML活動を経験した生徒の2年間ルーブリック評価の経年比較から、わずかではあるがS評価の数値が上昇していた。このことは、単元末の振り返りの記述で自己の身に付いた力を自覚できる生徒が増えたことと、「今後の行事に活かしていきたい」「国語での発表の時に役立てたい」といった地球未来科以外の学習活動を見据えての具体的な記述が見られたことにより裏付けられた。また、「昨年よりも改善できた点は」といった自己の経年比較が良くできており、さらに他の教科へ言及していた生徒の自己評価からは視点の広がりを感じるものもあった。同じ活動を繰り返し行う中では、立場が変われば自己評価も変容していくことをみとることができた。

### KEY STAGE 4

KEY STAGE 4は、一つの単元が長期に渡るため、活動ごとにルーブリック評価を行っている。

高校における異年齢・異学年集団での協働的な学習活動であるプラチナツアーでは、1回目と2回目でルーブリック評価を行い比較した。「捉える力」「解決する力」「英語をツールとしたコミュニケーション力」の3つの身に付けたい力全てにおいて、1回目よりも評価の平均点が上昇した。また、活動の最後に記入した「振り返りの記述」では、「前回の反省を踏まえて、主体的に改善することができた」という内容が多くみられ、教師による記述評価も高い評価となった。

### ⑤ 地球未来科で育成した「主体的な学び」の姿

高校2年次の3学期から3年次にかけて地球未来科の最後の活動として取り組む個人研究では、これまでの地球未来科の活動で身に付けてきた力を生かして、課題発見・仮説設定、情報収集（実験・実地調査・アンケート・インタビュー・文献調査など）、整理・分析（情報処理・考察）、まとめ・表現（ポスター・論文・発表スライドの作成、発表）、振り返り（他者評価、自己評価）という探究的な学習を行っている。

KEY STAGE 4では、主体的な学びの評価規準を「身に付けた力を他の学習活動や進路選択等将来の生き方に生かそうとする」としているため、個人研究のテーマと生徒の進路選択にどの程度の相関関係があるかについて分析した。その結果、令和2年度卒業生と令和3年度卒業生では約68%、現3年生では約86%の生徒が、個人研究のテーマに関連する学部・学科や専攻、業種を選んで進学や就職（現3年生は進路希望）をしていることがわかった。このことから、地球未来科で育成した「主体的な学び」が進路開拓につながっていることがうかがえた。

### （2）実施上の問題点と今後の課題

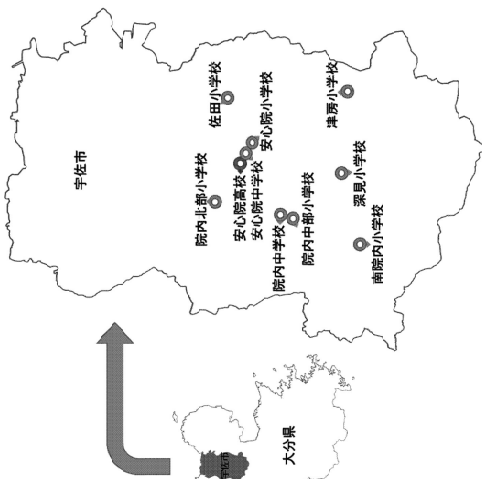
異年齢・異学年集団との協働的な学びは、活動を重ねていくことによって「主体的な学び」の育成により効果があることがわかった。しかし、複数回実施するには、対象となる学校・学年間でカリキュラムをすり合わせた単元計画を立てる必要があり、この調整をいかに効率よく行うかが課題である。また、物理的な距離が遠い学校間での協働学習を実施するためには、移動にかかる時間や移動手段の予算確保が必要であり、これらをどう捻出するかも今後の課題となる。

教科のST活動では、高校生と小学生の双方にとって「主体的な学び」を育成するのに効果的であったが、高校生が学んだ専門性を十分に生かすことができるよう、教える対象を中学生にした活動の導入も検討していく。

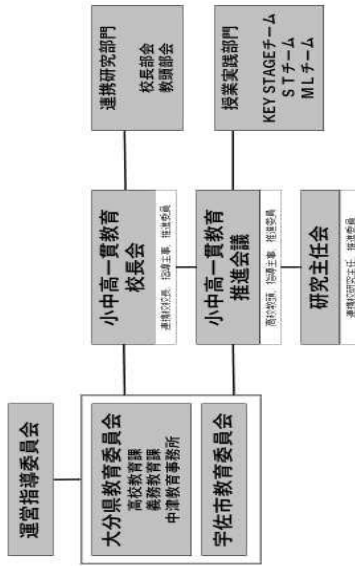
ML活動は、小学6年生と中学1年生との年齢差が少ない交流活動であるため、お互いに活発な意見交換ができた。しかし、中学生からのアドバイスをより多面的で深いものとするために、小学6年生と中学2年生のように、交流する学年の見直しを検討していく。

●連携型小中高一貫教育研究開発学校 研究開発概要図

【連携10校の位置関係】



【研究組織】



【研究会・研修会・発表会】

- 小中高合同研修会 (連携10校、年3回)
- 研究発表会 (教職員向け発表会、年1回)
- 校内研究会 (学校毎)
- 教育フォーラム (地域への発表会)

【教科横断的学習活動】



【KS (キーステージ) 制における協働的な学習活動】



【研究開発課題】

「地球未来科」の充実と、「地球未来科」で身に付けた力を生かしながら、各教科で異年齢の協働的な学びを行い、主体的な学びの育成を目指す。

主体的な学びの育成  
(身に付けた力を自ら生かそうとする姿)

批判的思考力の育成  
(自らの考えを吟味・修正して再構築する力)

【中3〜高3】  
論理的な思考力・表現力や課題解決能力を育成する発展期

KS4  
ゴールディングア

【小5〜中2】  
学ぶ方法や探究的な態度を育成する充実期

ST活動・フランチンニア

KS3  
ML活動

【小3・小4】  
表現方法や気づきの基礎を作る育成期

KS2

【小1・小2】  
身近な体験を通して学ぶ導入期

KS1

「地球未来科」を通して身に付けたい力・視点



A 国際的な視野で  
地域を捉える力

- A1 関心・意欲、生活に生かす・主体的
- A2 協働、他者理解 (国際的視野 (の芽生え))
- A3 自己理解、振り返り (自分自身)
- A4 課題の捉え 事象的知識・概念

B 地域の課題を国際  
的視野で解決する力

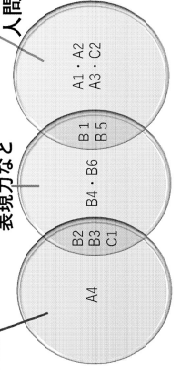
- B1 課題発見、課題設定 であう・みつける (願いを持つ)
- B2 情報収集 (活動する)
- B3 整理・分析スキル (感じる・考える)
- B4 まとめ 表現 (表現する・行高する)
- B5 振り返り (学習方法や内容)
- B6 コミュニケーション (スキル)

C 英語をツールとした  
コミュニケーション力

- C1 表現・コミュニケーション (KS1・2) 慣れ親しみ (KS3・4) speaking・writing プレゼンテーション 国際的視野

知識及び技能

思考力・判断力  
表現力など



【「育成を目指す資質・能力の3つの柱」との関連図】



## 安心院・院内地域7小学校 教育課程表（令和4年度）

	各教科の授業時数										道徳	外国語活動	総合的な学習の時間	特別活動	地球未来科	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語						
第1学年	306	*	136	*	0	68	68	*	102	*	34	*	*	34	102	850
	0		0		(-102)	0	0		0		0			0	(+102)	0
第2学年	315	*	175	*	0	70	70	*	105	*	35	*	*	35	105	910
	0		0		(-105)	0	0		0		0			0	(+105)	0
第3学年	245	70	175	90	*	60	60	*	105	*	35	35	0	35	70	980
	0	0	0	0		0	0		0		0	0	-70	0	(+70)	0
第4学年	245	90	175	105	*	60	60	*	105	*	35	35	0	35	70	1015
	0	0	0	0		0	0		0		0	0	-70	0	(+70)	0
第5学年	175	100	175	105	*	50	50	60	90	70	35	*	0	35	70	1015
	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0		-70	0	(+70)	0
第6学年	175	105	175	105	*	50	50	55	90	70	35	*	0	35	70	1015
	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0		-70	0	(+70)	0
合計	1461	365	1011	405	0	358	358	115	597	140	209	70	0	209	487	5785
	0	0	0	0	(-207)	0	0	0	0	0	0	0	(-280)	0	(+487)	0

## 安心院・院内地域2中学校 教育課程表（令和4年度）

	各教科の授業時数									道徳	総合的な学習の時間	特別活動	地球未来科	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	外国語					
第1学年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	0 (-50)	35	50 (+50)	1015
第2学年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	0 (-70)	35	70 (+70)	1015
第3学年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	0 (-70)	35	70 (+70)	1015
計	385	350	385	385	115	115	315	175	420	105	190 (-190)	105	190 (+190)	3045



## 学校の概要

### 1 学校名、校長名

大分県立安心院高等学校（全日制普通科）

山崎 克友（ヤマザキ カツトモ）

### 2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 大分県宇佐市安心院町折敷田 64 番地      電話      0978-44-0008  
FAX      0978-44-0264

### 3 学年・課程・学科別幼児・児童・生徒数、学級数

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	普通科	45	2	49	2	60	2	154	6
	合計	45	2	49	2	60	2	154	6
計		45	2	49	2	60	2	154	6

### 4 教職員数

校長	教頭	事務長	主幹教諭	指導教諭	教諭	養護教諭	臨時講師	非常勤講師	ALT
1	1	1	1	1	28	1	0	5	1
実習教諭	事務職員	主幹司書	非常勤農務技師	学校補助員	非常勤職員	スクールポートスタッフ	学習指導員	計	
1	2	1	3	1	1	1	1	51	

### 1 学校名、校長名

大分県宇佐市立院内中学校

阿南 隆（アナン タカシ）

### 2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 大分県宇佐市院内町山城 54 番地      電話      0978-42-5008  
FAX      0978-42-5035

### 3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

第1学年		第2学年		第3学年		特別支援学級		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
17	1	30	1	28	1	1	1	76	4

### 4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	養護教諭	臨時講師	非常勤講師
1	0	1	0	0	7	1	1	0
特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	ALT	学校主事	学校事務非常勤職員	学校司書	計		
1	1	0	1	1	1	16		

### 1 学校名、校長名

大分県宇佐市立安心院<sup>アジム</sup>中学校

時枝 政文 (トキエダ マサフミ)

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 大分県宇佐市安心院町下毛 2222 番地の 1 電話 0978-44-0004  
FAX 0978-44-0078

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

第 1 学年		第 2 学年		第 3 学年		特別支援学級		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
28	1	37	1	40	1	8	2	113	5

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	臨時講師
1	0	1	0	0	9	1	1	0
非常勤講師	学校事務非常勤職員	ALT	スクールカウンセラー	学校主事	学校司書	特別支援教育支援員	計	
0	1	0	1	1	1	1	18	

1 学校名、校長名

大分県宇佐市立院内北部<sup>インナイホクブ</sup>小学校  
北村 愛子 (キタムラ アイコ)

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 大分県宇佐市院内町櫛野 646 番地 電話 0978-42-5201  
FAX 0978-42-5607

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

第 1 学年		第 2 学年		第 3 学年		第 4 学年		第 5 学年		第 6 学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
8	1	12	1	6	1	9	1	11	1	16	1	62	8
特別支援学級													
児童数	学級数												
7	2												

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭
1	0	1	0	0	8	1	0
臨時講師	非常勤講師	学校主事	臨時事務職員	支援員	計		
1	0	1	0	0	13		

1 学校名、校長名

インナイチュウブ  
大分県宇佐市立院内中部小学校  
坪井 和久 (ツボイ カズヒサ)

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 大分県宇佐市院内町山城 91 番地 電話 0978-42-5601  
FAX 0978-42-5041

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
2	1	8		5	1	9	1	11	1	11	1	46	5

※2・3年は複式学級で1クラス

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭
1	0	1	0	0	5	1	0
臨時講師	非常勤講師	学校主事	事務職員	特別支援教育支援員	計		
1	2	1	0	1	13		

1 学校名、校長名

ミナミインナイ  
大分県宇佐市立南院内小学校  
田所 正 (タノコ タシ)

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 大分県宇佐市院内町下恵良 687 番地 電話 0978-42-5034  
FAX 0978-42-5043

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1	1	2	1	1		2	1	1		1	1	8	4

※3・4年、5・6年は複式学級で1クラス

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭
1	0	1	0	0	4	1	0
臨時講師	非常勤講師	学校主事	事務職員	複式授業改善講師	計		
1	0	1	0	1	10		

1 学校名、校長名

大分県宇佐市立<sup>フカミ</sup>深見小学校  
岩本 浩典（イワモト ヒロリ）

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 大分県宇佐市安心院町矢畑 40 番地の 2 電話 0978-44-4031  
FAX 0978-44-4089

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
5	1	0		2		7	1	4		5	1	26	3

※3・4年、5・6年は複式学級のため1クラス

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	養護教諭	臨時養護教諭
1	0	1	0	0	2	0	1
臨時講師	非常勤講師	学校主事	事務職員	支援員	計		
1	1	1	0	0	8		

1 学校名、校長名

大分県宇佐市立<sup>ツブサ</sup>津房小学校  
佐藤 勝（サトウ マサル）

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 大分県宇佐市安心院町五郎丸 380 番地の 2 電話 0978-48-2305  
FAX 0978-48-2309

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
6	1	5		3	1	4		9	1	1	1	28	4

※2・3年、4・5年は複式学級のため1クラス

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	臨時養護教諭	栄養教諭
1	0	1	0	0	3	1	0
臨時講師	非常勤講師	学校主事	事務職員	支援員	計		
1	2	1	0	0	10		

1 学校名、校長名

大分県宇佐市立<sup>アジム</sup>安心院小学校  
 小屋瀬 八重子 (コヤセ ヤエコ)

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 大分県宇佐市安心院町木裳 115 番地の 1 電話 0978-44-0025  
 F A X 0978-44-0167

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
11	1	11	1	17	1	16	1	9	1	15	1	90	8
特別支援学級													
児童数	学級数												
11	2												

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭
1	0	1	0	0	9	1	0
臨時講師	学校事務非常勤職員	学校主事	臨時養護教諭	特別支援教育支援員	計		
0	1	1	1	2	18		

1 学校名、校長名

大分県宇佐市立<sup>サダ</sup>佐田小学校  
 榎本 美奈子 (エノモト ミナコ)

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 大分県宇佐市安心院町佐田 215 番地 電話 0978-44-0154  
 F A X 0978-44-0209

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1	1	4		1	1	5		5	1	3	1	19	4



※1・2年、3・4年は複式学級のため1クラス

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭
1	0	1	0	0	3	1	0
臨時講師	非常勤講師	学校主事	会計年度任用職員	支援員	計		
1	2	1	0	1	11		